

## 第13回熊本市市民公益活動支援基金運営委員会会議録概要

- 1 開催日時：平成27年3月25日（水）9時00分～15時00分
- 2 開催場所：熊本市総合保健福祉センター（ウェルパルクまもと）1階大会議室
- 3 出席者：市民公益活動支援基金運営委員  
（委員）

- ・出席者：明石 照久 委員長（熊本県立大学 総合管理学部 教授）  
佐藤 和弘 副委員長（株式会社 地域総研 代表取締役）  
木下 真理子 委員  
(NPO法人 ケアサービスくまもと サンアンドムーン 理事長)  
水野 直樹 委員（地域づくりアドバイザー）  
宮本 チサエ 委員（公募委員）  
古庄 修治 委員（熊本市企画振興局次長）  
田端 高志 委員（熊本市健康福祉局次長）

### 4 配布資料

- ・資料1 平成27年度助成事業公開プレゼンテーション（次第）
- ・資料2 分野指定助成事業プレゼンテーション発表団体一覧
- ・資料3 平成27年度助成事業審査会資料
- ・資料4 助成事業審査基準選定方法

### 5 プレゼンテーション趣旨説明

事務局から、審査手順についての説明が行われた。

### 6 プレゼンテーション（持ち時間8分、質疑応答5分の計13分）

#### (1) 保健・医療・福祉の分野

##### 1) Human Life Support of MUSIC BAND 絆 ボランティア会

【事業名】生バンド演奏による高齢者福祉施設に対する音楽出前ミニコンサート活動事業（熊本市内）

<質疑応答>

- ・公演で熊本の曲を披露することはあるのか。（宮本委員）→ある。熊本の歌を披露すると大変喜ばれる。歌だけでなく、熊本の話を織り交ぜながら公演を行っている。
- ・施設の規模によっては、バンド演奏が難しい所もあると思うが、その様な場合はどうしているのか。（古庄委員）→施設の規模に合わせた編成を組み、事業を実施している。
- ・依頼される施設が固定的になっているように思う。今後の事業を拡げていく計画はあるのか。（古庄委員）→これまでは、高齢者施設にPRを行ってきたが、今後は関係各所にもPRを行い、掘り起こしを行っていきたいと思う。
- ・事業の収支計画の中に「プロジェクター投影用データ作成費」というものがあが

っているが、過去の活動の写真を見る限りでは、自分たちで作成しても良いのではないか。また、歌手の写真を使用しているが、個人利用の範疇を超えており、著作権も問題になってくると思われるが、どう考えているのか。(水野委員) →著作権については考えていなかったもので、調査の上、適切な対応をしたい。データの作成については、作成を依頼する対象となる曲が120曲以上あり、自分達での対応が難しいことから、委託で行いたいと考えている。

## 2) NPO 法人 熊本わくわく体操ボランティア協会

【事業名】 わくわく体操を実施して地域の健康づくり、活性化を図る事業

<質疑応答>

- ・平成27年度で助成が3年目になるということだが、これまでの実績についての資料等はないのか。(佐藤副委員長) → 今後は数字や表で表せるように事業を行っていききたい。
- ・区役所の保健師等との連携についてはどう考えているのか。(田端委員) → どの様に連携して良いか分からないので難しい。逆に熊本市から「こんな連携ができる」と提案して欲しい。
- ・居場所づくりのボランティアと連携してもらえれば、もっと居場所が居心地の良いものになるのではないかと。(木下委員)

## 3) くまもと歯っぴーかむカムひごまる協議会

【事業名】 ベロタッチで健康推進！～口から始める健康づくり～

<質疑応答>

- ・次に助成を受けられれば3年目ということだが、この段階で効果についての講習会を行う必要があるのか。事業を拡げていきたいということであれば、地域講習会等の回数を増やすべきではないか。(古庄委員) → 講習会の目的は、複数回の研修を受けてもらうことで理解を深め、指導者を育成することにある。また、講習会は熊本市内の色々な地域で実施していきたいと考えている。
- ・今日のプレゼンテーションでは、「ベロタッチ」の紹介がほとんどで、何に対してどのような助成が欲しいのか分からなかった。また、今後ベロタッチをどの様に全国的に普及させていくのか。(佐藤副委員長) → 普及については、熊本市内の小さなコミュニティでの講演会を行って行きたいと考えている。そこで評判になれば、口コミで熊本市外の地域にも広がって行くと考えている。

## 4) コンチネンス熊本勉強会

【事業名】 排泄ケア勉強会

<質疑応答>

- ・施設にいらっしゃる方が対象となっていたが、そもそも排泄障がいの方は、在宅の場合が多いのではないか。(宮本委員) →高齢者のみならず、障がい者なども対象としている。
- ・団体の構成などの中身について教えてもらいたい。(古庄委員) →コンチネンス協会は世界規模の組織である。コンチネンス熊本勉強会は、日本支部(東京都)下部組織である九州支部(福岡市)に属している。  
どの様な方が構成員なのか。(古庄委員) →医師、看護師、保健師、理学療法士、及び一般の方である。

#### 5) NPO 法人 成年後見安心サポートネット熊本

【事業名】 成年後見無料相談事業ならびに広報啓発事業

<質疑応答>

- ・広報についてだが、全国規模で同様の活動を行なっているところと連携することで、効果的な広報ができるのではないか。(佐藤副委員長) →全国にも同様の活動をしているNPO法人等はある。だが、まだそれらの法人との連携までは行き着いていない状況にある。
- ・相談会の時間が平日のみになっているが、休日にはやっていないのか。(木下委員) →どうしても平日に相談会に参加できない方については臨機応変に対応している。ただ、その場合でも1度は相談会に参加してもらうようにしている。
- ・かなりの額の自己資金を用意されているが、助成金を受けた場合と助成金がない場合の事業の違いを教えて欲しい。(水野委員) →当NPO法人の財源は非常に厳しい状況にあり、今回はたまたまある程度の自己資金を用意できたが、是非助成していただければ、今後も安心して活動を行なっていける。
- ・会報や広告費にかなりの額の予算が割いてあるが、広報の内容が事業ではなく、団体についての広報になっていないか。(古庄委員) →成年後見制度についての説明は非常に難しいので、求められた時に必要に応じて行っている。

#### 6) NPO 法人 スポレク・エイト

【事業名】 ロコトレ健康教室で健康で長生き

<質疑応答>

- ・支出計画の「消耗品」中に「ストレッチマット」等の明らかに備品であると思われる物があるが。(佐藤副委員長) →当法人には、これらを購入するための予算が無い。また、マットについては現在、水前寺競技場から借りているが、状態が悪く、数も足りないため、購入費用を計上させてもらった。
- ・20名の参加者に対して3名の指導員とのことだが、その人数で対応できるのか。参加者に年齢制限があるのは何故か。(宮本委員) →寝たきり予防を意図しているた

め、60歳以上の参加者を募った。また、過去の実績に基づき、20名の参加者に対し3名の指導員で充分であると考えている。

- ・これまでもこの事業実施されてきたということだが、今回助成を受けることで、どのようなことが変わるのか。(水野委員) →参加者の人数増が見込める。

#### 7) NPO 法人 でんでん虫の会

【事業名】ひとり暮らしの「居場所づくり」事業

<質疑応答>

- ・今回の助成金をもらえたなら、活動のどこに特に力を入れるつもりなのか。(佐藤副委員長) →広報や講師を招いての学習会に力を入れたいと考えている。また、交流会も行いたい。
- ・行政と連携はしていないのか。また、講演会は、この「居場所づくり」事業の中でどういう役割を果たすのか。(古庄委員) →「ささえりあ」とは、毎日の様に連絡を取り合っている。

#### 8) 熊本の大気汚染を考える会

【事業名】熊本の大気汚染測定運動を通して郷土の環境保全を図る活動

<質疑応答>

- ・行政との連携はしていないのか。もし、行政と連携しているということであれば、貴団体と行政との役割分担をどう考えているのか。また、講演会の内容について教えていただきたい。(古庄委員) →以前は、測定結果を熊本市に報告していた。講演会は、活動の報告と新たな協力者を募るためのPRの場になればと考えている。

#### 9) 特定非営利活動法人 子ども夢工房

【事業名】日本の伝統文化にふれる「五色百人一首教室」

<質疑応答>

- ・参加者(30名)と案内の送付先の詳細について教えて欲しい。(宮本委員) →参加者30名は、保護者を含まない実際に参加する子どものみの数である。また、送付先90箇所は、案内を送る予定の小学校の数である。
- ・植木町を中心に活動しておられるとのことだが、北区役所や文化協会との連携は考えておられないのか。(古庄委員) →北区の「まちづくり懇話会」には参加している。その場で私たちの活動の紹介をさせてもらっている。
- ・熊本在住市内在住の小学生を対象として、植木で開催する教室に招くとあるが、広く参加者を募るという面においては、会場の場所が不適當ではないのか。(古庄委員) →広い場所の確保ができるので、植木文化センターで百人一首大会を行ったが、南区や東区といった地域の様々な学校からの参加があった。

10) さわやかボランティアーズ

【事業名】昔から遊ばれている「伝承の遊び」と昔から伝承している行事を地域の子ども等に普及と指導をする。

<質疑応答>

- ・8月に子ども文化会館にて「さわやかボランティアーズ祭り」を実施されるとのことだが、詳細について教えて欲しい。(水野委員)→これまで熊本農業高校で実施していたが、参加者が一部地域に集中していたため、中央区での実施を検討した結果、子ども文化会館で実施することとなった。
- ・「ふるさと祭り」は、なぜ嘉島町で実施されていたのか。また、慈愛園の園児を中心に行っていたのはなぜか。(古庄委員)→どんどやを実施できるような場所の確保が熊本市内では難しかったため、嘉島町で実施している。慈愛園の園児だけではなく、会場周辺の子どものりや熊本市内の子どもも招待している。

11) 特定非営利活動法人 くまもと学習支援ネットワーク

【事業名】不登校・ひきこもり等に関する保護者の学習・ネットワーク作り事業

<質疑応答>

- ・収支計画の中で、「チラシ配布ボランティア」に1時間あたり千円を支払うことになっているが、ボランティアに報酬を支払うのか。(宮本委員)→この「チラシ配布」は、不登校や引きこもりだった方などの社会的に困難のある方々にやっていただきたかったため、ある程度の報酬を出すことにした。→有償のボランティアが無いわけではないが、ボランティアという表現を変えてはどうかと思う。(宮本委員)→確かに表現が適当でなかったように思う。
- ・団体そのものについて教えてもらいたい。(古庄委員)→そもそもこの法人は、「江原予備校」の塾長が立ち上げた法人で、今は別団体である。また、当法人は人吉にサポートステーションを持っている。熊本市のサポートステーションでは、他の団体と連携して活動している。

12) ジェンヌ Kumamoto

【事業名】保活コンシェルジュくまもと 2015

<質疑応答>

- ・「特色ある施設」とのことだが、特色とはどういうことか。また、特色ある施設(保育園)をばかりを紹介すると、入園できない子どもが多くなるのではないか。(宮本委員)→園児に運動を多くさせてくれたり、建物にとっても気を使っている施設などを特色のある施設としている。また、紹介する施設は特色ある施設に限らず、全ての施設について紹介する予定である。

- ・保育幼稚園課との連携は考えていないのか。(古庄委員) →是非連携したいと考えている。
- ・団体について教えて欲しい。(古庄委員) →熊本市や熊本市近隣の栄養や託児の専門家などの会員によって構成されている団体で、自分達の仕事をしながら子育てをしてきた経験を活かし、これからの世代のためにできることやっていくことを目標としている。

#### 13) 特定非営利活動法人 くまもとインターネット市民塾

【事業名】NPOのための情報発信・インターネット活用支援事業

<質疑応答>

- ・この事業は、対象をNPOに限っているから「公益性」があると考えておられるのか。(佐藤委員) →NPOを対象に無料でこの事業を行うことに、「公益性」があると考えている。
- ・無料で行うと言われているが、収支計画の中に受講料があがっているが。また、支出の大半を占める講師への謝金に比べ、収入が少なすぎるのではないか。そもそも対象が6名とのことだが、講師の数が過剰であるように思える。実際の対象者は何人位だと考えているのか。(古庄委員) →募集定員は一応5名～10名程度を想定している。また、応用編は有償だが、それ以外の部分は無償で行うことにしている。なお、講師はメインの講師とサポートの講師の2名を予定している。これまで経験から少なくとも講師は2名必要だと考えている。

#### 14) 特定非営利活動法人 熊本ラグビースクール

【事業名】地域青少年へのスポーツ普及事業

<質疑応答>

- ・スクール生以外を対象とした活動はないのか。スクール生のための活動ということであれば、それはスクール生の会費をもって賄うべきではないのか。(古庄委員) →スクール生を主体として、保護者といった様々な方を巻き込んだ活動を私たちは目指している。
- ・収支計画でボール代等が計上されているが、この収支計画中のどの辺りが公益的な助成にあたるのか。(佐藤副委員長) →私たちの活動はラグビーを通じて社会貢献等を行っており、しっかりラグビーができる様にする必要がある。
- ・スクール生以外の子ども達を対象とした活動はしていないのか。(宮本委員) →ホームページやチラシ等で普及に努め、興味を持った子ども達にラグビーを体験してもらったりしている。

#### 15) NPO 法人 日本防災士会・熊本県支部

【事業名】地域市民とNPOとのコラボDEまちづくり防災出前講座

<質疑応答>

- ・収支計画の中に「アドバイザー謝金」があるが、この事業におけるアドバイザーの役割及び必要性について教えてもらいたい。(古庄委員)→様々な災害に造詣が深い大学の先生に講師を依頼しようと考えている。
- ・町内会長や区長といった方に防災について働きかけるためには、どういうことからやっていったら良いと思うか。(佐藤副委員長)→日頃から町内会長等を訪問して、地道に活動を続けていくしかないと思われる。

#### 16) NPO 法人 身近な犯罪被害者を支援する会

【事業名】犯罪被害者等への支援内容と犯罪の起きにくい、安全安心なまちづくり推進事業及び青少年育成事業活動

<質疑応答>

- ・この事業は、民生委員や福祉協議会といった人たちに啓発をしたいという提案で間違いないか。また、それらの人たちに対してどういった働きかけをしておられるのか。(古庄委員)→犯罪被害者の話を実際に聞いてもらうことで、聞いた人たちの犯罪被害者に対する理解が深まり、その後の相談にも繋がっていく。
- ・青少年・高齢者への対応と対策については、校区の防犯協会との連携を行った方が効率的ではないか。(古庄委員)→色んな団体とネットワーク作っていきたいと考えている。

#### 17) 水前寺をどり実行委員会

【事業名】第4回水前寺をどり

<質疑応答>

- ・この事業は、「わくわく江津湖フェスタ」で、他課の助成金を貰い実施していたと伺っている。今年度については、助成が無くなり「くまもと・わくわく基金」に申請されたとのことだが、「くまもと・わくわく基金」以外での財源確保は試みなかったのか。(古庄委員)→様々な助成金の制度等を調べた上でこの基金に申し込んだ。もし、この基金から助成が受けられなくとも、何らかも方法で資金を集め、事業を継続していきたい。

## 7 総評・・・(市民公益活動支援基金運営委員会 明石委員長)

日本の社会は、今、大きく変わりつつある。一つは、よく言われていることだが少子高齢化、情報化、そして東京や福岡など特定の地域への人口偏在である。これらは国や自治体、地域の皆さん方にとって大きな課題であるわけだが、本日のプレゼンテーションのテーマは、それらの課題に関するテーマを選んでいただいていたと思う。この「わくわく基金」も平成26年度をもって3年目迎え、それなりに定着はしてきたかと思うが、寄附の方が中々集まっていない。そういった中で、皆さん方の頑張りが、寄附にも繋がっていくことになり、日本が抱えている大きな問題に対処していく上でも、一つの大きな働きができるのではないかと考えている。

ところで、本日のプレゼンテーションだが、少々、分かりにくいと感じるものが多かったように感じた。やはり、8分間という限られた時間でプレゼンテーションをしていただくわけであるから、単に団体の活動を紹介するだけではなく、「一体何が課題で」「熊本市と連携・協働しながらどういう風に地域が抱えている課題を解決していくのか」「自分達の取組みはこういうことで、どのような成果をあげることができるんだ」といった辺りを強調していただければ、と思った。今後、またこのような機会があったなら、端的に、ご自分の団体で「一体何をしようとしているのか」、「どういうことを課題として捉え」「その課題を解消するために、どういう風に自分達の持つ資源を活用し、役立てることができるのか」という点に留意したプレゼンテーションを期待したいと思う。それ以外については、皆様方、各団体の熱心な取組みが伝わってくるプレゼンテーションであったと思う。皆様方の日々の積み重ねが、様々な形で熊本の地域課題を解決する具体的な取組みとして実を結ぶことによって、ひいては寄附の増額、あるいは積極的に皆様方の活動に参加をいただける市民の数を増やすことにも繋がっていくということになると思うので、今後ともますます地域でご活躍をいただくよう、よろしく願いしたい。

## 8 閉会(事務局)

- ・本日の結果は、4月上旬頃までに各団体に送付する。
- ・採択された団体は、熊本市ホームページで公表する。
- ・今後の事業の参考とするため、アンケート用紙への記入をお願いする。

(終 了)